



八戸市 観光振興プラン (素案) について

1. プラン策定の趣旨



- ・少子高齢化による人口減少が進む中、観光による消費は地方産業の活性化に寄与し、国内外との交流人口の拡大が地域活性化の鍵となる
- ・アフターコロナの旅行スタイルの変化やインバウンドの増加などによる観光のトレンドやニーズが変化をとらえ、持続可能で質の高い観光を実現する必要がある



観光を産業として地域に根づかせ、八戸市の観光再生と積極的に選ばれる都市を目指す

- **12名の方々に委員を委嘱**
(学識経験者・知識経験のある方・観光団体関係者・公募)
- **八戸市観光振興審議会**の開催
(これまで6回の審議会を開催)



- **計画期間：5年間**
(令和7年度～11年度)
- **アクションプランの作成**
(令和7年度中に作成し、具体的な取り組み等を示す)

ハマる、ハチノへ。

～ふれる旅から、ふれあう旅へ。～



ハマる、ハチノへ。

～ふれる旅から、ふれあう旅へ。～

「ハマる、ハチノへ。」は、知るほど、訪ねるほど、そこにある日常に溶け込むほど、どんどんディープな世界の虜になっていく八戸の時間。その奥深さにはまり、多くの方にリピーターになってもらいたいということ、さらに湊町八戸をイメージさせる「浜」と掛け合わせて「ハマる、ハチノへ。」といたしました。

「～ふれる旅から、ふれあう旅へ～」については、観光地の旅は、楽しみ方が一方通行になりがちですが、八戸のそれは旅の時間に地元の人がきちんと介在し、一方的に何かにふれるだけでは得られない、交流してこそその新体験・新発見がある八戸旅を目指していくという思いが込められています。

6. 3つの基本方針



① 地域の事業者が稼ぐ観光を目指し、
観光消費額を拡大する

② 持続可能な観光を確立し、地域経済
の活性化、環境保護、地域文化の保
存と継承を進める

③ 観光振興による市民の幸福度の向上



基本方針①

地域の事業者が稼ぐ観光を目指し、観光消費額を拡大する。

【数値目標】

観光消費額の拡大

- ・入込客数の増

5,611,849人 (R5)

→6,173,000人 (1割増)

- ・平均旅行消費額の増

26,442円 (R5:宿泊者)



基本方針②

持続可能な観光を確立し、地域経済の活性化、環境保護、地域文化の保存と継承を進める

【数値目標】

日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）に沿って取組を進め、「持続可能な観光地100選」の選出を目指す



観光庁が策定した持続可能な観光を進めていくためのガイドラインで47の取組項目がある

① 持続可能なマネジメント

例) 現行のデスティネーション戦略・取組を公表していること

② 社会経済のサステナビリティ

例) 経済データの収集についての取組を行っていること

③ 文化的サステナビリティ

例) 文化資産の修復や保全の取組があること

④ 環境のサステナビリティ

例) エネルギー消費量の目標を公表し、促進していること



基本方針③

観光振興による市民の幸福度の向上

【数値目標】

市民アンケートにおける「観光地域づくり
の推進」の満足度

令和5年度 37.6%



令和11年度45%



① 食のまち・八戸の推進

② 三陸復興国立公園
「種差海岸」の魅力向上

③ インバウンド対応の充実



食のまち・八戸の推進

- ①食を通じて八戸の旅の満足度を高める
- ②当市の水産・畜産等と観光を融合させ
新たな観光を創造する
- ③食べに行きたくなる街の仕掛け 等



三陸復興国立公園 「種差海岸」の魅力向上

- ①「種差海岸」の豊かな自然の活用と守るべき価値の保存
- ②民間投資を呼びこむエリアの設定
- ③文人墨客に愛された魅力や歴史を活かしたブランディング
- ④みちのく潮風トレイルのスタート地点としてのブランド価値の向上と八戸十和田トレイル(仮称)と連動させたPR 等



インバウンド対応の充実

- ① インバウンドにおける八戸の認知度向上
- ② 広域連携による誘客とキャッシュレス決済
など受入の両輪による事業展開の実施
- ③ インバウンドに注目されているみちのく潮風
トレイルのブランディング
- ④ 大型客船の誘致 等

15. 今後のスケジュール



①【令和7年4月10日～5月9日】
パブリックコメントの実施

②【令和7年5月10日～】
意見とりまとめ、意見の反映 等

③【令和7年5月下旬】
完成予定